

令和3年9月15日 議会改革特別委員会 議事録
10時27分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さんおはようございます。定足数に達していますので、ただいまより議会改革特別委員会を開催いたします。

まず今回の委員会、私考えておりますのに、おおむね1か月に一遍程度ぐらいで行いたいと思いますので、その辺のところ御了承お願いいたします。

今日は第1回ということで、新しく入られた委員さんもおられますので、しっかり、前回のこともありますので、協議していただけたらと思います。

それでは日程第1から行ってまいります。

日程第1は前委員会での経過報告をさせていただければと思います。どうかよろしくお願いたします。

前回の議会改革特別委員会ですが、2年間のフルに活動いたしまして、計画から実行、皆様方の要望をいただきまして、実行された項目は3点ございます。

まずSNS活用、議長が発信をするということと、それから委員会中継においてはYouTubeで皆さんに御覧いただけるようになっていくということと、それから3点目の自由討議制度でございますが、一応システマ的には常任委員会のほうには了承を取っておりまして、まだその実行、自由討議に係る委員の皆さんの、案件がなかったということで実行されておきませんが、あればすぐできる体制にはなっているということでございまして、以上3点はもう実行・制度として成り立っております。

それからもう1点、これがかなりの時間を要しておるのですが、決算特別委員会による決算審査におきまして、議会からの提案という項目でございますが、こちらのほうはなかなか委員の方の意見集約がまだ途中段階とっていいんですかね、それがまだ確立されておきません。意見がそろわないので、まずは実行してみようという意見も出ましたので、その辺のところを皆さんに協議していただければと思います。

議会提案になりますと、かなりの自由度と申しますか、執行部に対しましての威厳といえますか、重みといえますか、そういうものが要求されるのではないかと私自身思っております。選ぶ議案といえますか、提案といえますか、それにかかなりの重力がかかるということで、これを選定する過程での自由度が増してくるのではないかとということでございまして。その過程はサイドボックスなりに載っておろうかと思いますが、8月の18日でもし決

まった場合はこういう流れで行くという解説といいますか、それは8月18日の議会改革のサイドボックスのほうにアップされていると思いますので、その後の今でございますが、これを決まりますとこういう過程になるんですが、ただこれに行くまでに皆さんの意見を聞いてみたいといいますか、もし実行するとなれば日程がもう詰まっておりますので、これだけは今日中に決めたいと思いますので、皆さんの意見を聞かせていただければと思いますが、どなたからでも。

小田上委員。

○小田上委員 前回までの2年間あった議会改革特別委員会の中でも委員でいて、また続けてということで、まず今、委員長言われたのは、決算特別委員会後の委員の意見集約をして、その結果議会提案するところの試行を、この9月に設置される決算特別委員会にお願いをするかどうかということですよ。

○網谷委員長 そういうことです。

○小田上委員 それを聞かれているということですね。

もう、前任の特別委員長の申し送り事項として令和3年秋に設けられる予定の決算特別委員会に本委員会から試行をお願いするというふうにありますんで、いろいろ課題を出すためにも試行という形をお願いするべきじゃないかなと思います。

○網谷委員長 ほかに。ありませんか。

北地委員。

○北地委員 この議会改革特別委員会は、今回私は初めてなもので、まあ前回の傍聴はしてありましたんで大体の流れは分かっているつもりなんですけれども、2年間かけてしっかり議論されてきておられると思っておりますので、前回までの委員会をそのまま踏襲して、しっかりそれを追従してやっていけばいいんじゃないかと思えます。だから、小田上委員と同じように、決算特別委員会のほうに試行をお願いするというようなことで結構かと思えます。

○網谷委員長 お2人の方から試行してみるという、取りあえずやってみるということですよ。ほかの意見はございませんか。

ないようでしたら、試行するというのでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 ということで、この件に関しては、一応試行するというので、明後日の議会運営委員会のほうに諮っていただくこととなりますので、その辺のところは御了承お願い申し上げます。

この件に関しては以上で終わってもよろしいですね。

ということは、決算審査のほうを、決算特別委員会が来月15日に終了するんですよ。それから合同スケジュールとすれば大変タイトなものになるかと思いますが、皆さんその辺のところはよく心づもりお願い申し上げます。

以上で試行するというので決めていただきました。ありがとうございました。

日程第1は、これで打ち切りたいと思います。

次に日程第2でございますが、これから2年間委員の皆さんと議会改革に向けて切磋琢磨

磨して、市民のためにいい方向になるように議会の改革をしてみたいと思いますので、ここでわしはこれをして、わしはあれをしたいと言うのも甚だ口頭では難しいと思いますので、文書にてまずは今月いっぱいぐらいで議会事務局に提出していただけたらと思います。

それでよろしいでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、新しいメンバー構成になっていますんで、そこも踏まえないといけないのかなと思うんですが、この2年間やってきた中で、以前の委員の中で課題の抽出をして、優先順位を決めてやってきたと思います。その結果今回、決算特別委員会の試行もあると思うんですけど、その2年前に出した課題とかも全て置いておいて、何でもいから意見を出せっていうことですかね。

○網谷委員長 いいえ、置いておくという言葉がちょっときついんですがね。全部実行されたわけではないので、それを踏まえてまた新たに、また思い当たる点があるかと思えますので、新しくお2人の方が入れられたということもございまして、新たに文書にして出していただければと思いますんですが、いかがでしょうか。

○小田上委員 じゃあ、2年前に意見を募ったじゃないですか。それをある程度基にして、意見の文書を出したほうがいいということですかね。それにプラスアルファがあれば程度でということですかね。

○網谷委員長 そういうことです。

○小田上委員 分かりました、大丈夫です。

○網谷委員長 全員、委員の方はもちろん、2年前に出されとるんですよ。それを踏まえて、まだここも気づいたということもあろうかと思えますので、それは出していただいて結構かと思えます。

新たにお2人の方がメンバーになっておりますので、そのお2人の方はしっかり考えていただきまして、会派で決めていただけたらと思いますので、その辺のところは分かっていたらと思います。

原田委員。

○原田委員 今までの2年間の経過を見て、その中でもしこれからまだ先に検討していかなくちゃいけない課題であるとか、もし検討しなくていいものがあったりとかあるのかなと思うんですが、継続して検討しなければならないようなものがあればそれを抽出するのと、それからまた新しくこの2年間、どのような形でどのようなことを話し合っていくのかと、課題を見つけてそれを提出するという意味かなと思ったんですけど、1つあるんですけど、委員長からやっぱりこの、私はこういうふうに、仮にですよ、それが皆さんの意見と合致するかどうかは分かりませんが、やっぱり委員長がこういうふうにやっていきたいというような思いみたいなものを聞かせていただければ、私としては委員長がそういう思いがあるのならば、そういうことも1つ頭に入れながら考える、1つの材料になるかなと思うんですが。委員長がどのように考えていらっしゃるか、お聞かせいただければと思います。

○網谷委員長 これ私の私見ということで言ってよろしいでしょうかね。

委員長というのは皆さんの意見をまとめると役目と思っとるんでね。自分のカラーを出してもいいよと言われるんなら、その考えを聞かせてくれと言われるんなら言えますけどね。そういうことをしてもいいんですかね、私、前々回ですか、基地周辺対策特別委員長をやらせてもらったときに、委員長としての意見が強いほうに感じられたと思うんですがね、委員の方が。これは網谷の委員会かという言葉が言われた覚えもございますので、そういうことを言われますと出過ぎたところがあるのかなというふうに私自身反省しておるところでございますので、今回は委員長を授かりまして、そういうことは極力出さないで、みんなの意見を調整するほうに回ったほうがいいんじゃないかということですので、皆さん、ほかの委員の皆さんが、委員長の意見を聞いてみようじゃないかということになりますと、私の意見も考えもあります、そういうことはないほうがいいんじゃないかというふうに思いますので、皆さんどうですかね。

議長。

○賀屋議長 すみません、私から一言お願いをしておきたいんですけれども。

確かにこの委員会は特別委員会であって、皆さんの合意の下で方向性を決めればいいのかと思うんです。それの中でやはり、委員長という立場で、方向性をどういうふうに出して引っ張っていくかというのは、大きな役割でもあるというふうに考えていますので、十分に委員長としてのその思いを伝えていただいて、それをまた皆さんが話を、協議をするということでもいいんじゃないかなと思うんですが。

1つ私からお願いなんですけれども、2年前に特別委員会で、私は委員ではございませんでしたけれども、いろいろな意見が出される中で、1つの大きなテーマとして、市議会選挙が無投票に終わったということがあったと思うんですよね。そのことについて、何で無投票なのかと。大竹市議会始まって以来の無投票でした。このことについての議会としての受け止め方をどういうふう整理をするかというのは、1つの議会改革の中での大きなテーマであったように思います。そのことは結果として優先順位が後半になってしまっているわけなんですけれども、もう次の選挙まで2年しかありませんので、これをそのまま結論を出さずに、何も議会で話もせず終わって、また次は無投票だったということになると、それこそ市民から議会そのもの、議員に対しての風当たりと言いますか、そういうものがさらに強くなるというふうに思うんですよね。必ずしも定員の削減というのは目指すところではないかも分かりませんが、どうあるべきかというこの在り方、大竹市の市議会議員の在り方についてどういうふうにあるべきか、そのためにはどうするべきか、結構時間がかかるかと思うんです。定数をどうするかということとか、あるいは処遇をどうするかとか、あるいは活動をどういうふうにしていくとか、それぞれ議員一人一人の考えをまとめて、それを整理していくわけですから、当然周りの議会との関連も十分比較調査をしながら結論を出さないといけないと思うんですけれども、いずれにしてもそこを時間的な余裕もあまりないんで、そこに力を注いでいただきたいと、つまり結論を出していただきたいというふうに思うんです。そのことで皆さんが、いやそら、そが急がんでええと、まあ次も結果的に無投票でもええじゃないかという思いが皆さんの中であって、この議会改

革の中でこの議題に上らないのであれば、それはやむを得んかも分かりませんが、私の思いはそういうことを皆さんにお願いしたいということです。よろしくお願いします。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 書面を出すにはやぶさかじゃないんですけど。

私は常々言っておりますように、今、議長がおっしゃられたように、議員の身分をどうするか、議員定数を削減するのかなのかというのは、もはや折り返し地点を過ぎた以上は、議会としての旗幟を鮮明にすべきだと思います。それを出せというなら出しますが、何ていうんですか、その成り手を増やすとか何とかちゅうのは、もう私に言わせれば詭弁も甚だしいと思われまので、成り手を増やすのも結構だけど、その成り手の質がどうなのかというのもいろいろあるわけであって、とにかく選挙を行うためには最低限、その要するに議員定数をするのかなのかという、1つの結論。だから過半数でもうしないというなら、議会で。そういう結論から逃げるべきではないと私は思います。

委員長の在り方については、私は、委員長は役で言えばチーフアンパイアだと思いますので、あまり自分の主張を押し付けるのは、最終的に出さなければいけない場合以外は、出さないほうがいいのではないかと私は思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長をはじめ、大きな課題が文書を見る前に出ましたんですが、小中議員が言われたことも含めて、文書で出していただくということは、無理なんですかね。

○小中委員 いや、だからやぶさかではないと。その前に私の意見を述べさせてもらったんです。

○網谷委員長 それも含めて、文書にして出してください。お願いします。

日域委員。

○日域委員 文書はいいんですけど、文書の前に皆さんが一応どんなお考えを持っているかということをごっと聞く意味でも、発言は皆さんに求めたほうがいいかなと思います。

さっきの無投票のことですけれども、私正直に言って、2年前です。4月にあるお母さんにうちの子が18歳になったと、大学に入ったんですよと、県議会の選挙をしてから行くって張り切っていたのに無投票だったんですよって言われて、それじゃ市議会お願いしますねって、投票してくださいって言ったらそれも無投票だったんですよ。やっぱり投票行動っていうのは大事な意思を示す行為ですから、もちろん誰でも出れるんじゃない、そりゃあそがん文句言うんやったらあんた出んさいやって言ったことも私ありますけども。そういっても言える人と言えない人、誰彼構わず言えるわけじゃありませんけども。やっぱり選挙があって恥もかくし、落ちる人は落ちるし、いろんなことがあるんやけど、その儀式を通じてやっぱり選ばれたほうには選ばれたっていう、何ていうかな、自負心っていうのが感じられますよね。そういう意味でやっぱり一応あったほうがいいと私は思いますが、そのためにどうするかっていうのは様々あります。選挙するほうから見たらこんな楽なことではなくて、あの後みんなすごくよかったのうっていう本音を交わしたのは事実ですけども、やっぱりそうじゃないほうがいいのだらうなという気はします。

皆さんの文書を出すにしても、あの人がこう言いよったよねと思いつつ書くほうがり

アリティーがありますから、一応皆さんの一言コメントが聞けたらいいなという気がします。

○網谷委員長 日域委員、あったらいいなというのは、投票行為があったらいいなという意味ですか。

○日域委員 投票できなかったのが論点ですから。

○網谷委員長 投票があったらいいなということですね、分かりました。

今、日域委員から、私が早とちりしたんですかね、文書を先に出してくれということと言ったのが、こんなに発言があるとは私予想がなかったので、すいません。

こうして発言ができるのは大変いいことでございますので、取りあえずそれでは1人ずつでも、今発言がなかった方からでもしていただければと思います。

小田上委員。

○小田上委員 すいません、発言がなかったわけじゃないんですが、ここには触れていなかったのです。

2年間やってきたことが丸々無駄だったとは思っていません。今から定数の話をしていくべきだとも思っています。選挙にならなかったのは、選挙にならなくてよかったねと言ったのは親戚だけです。後援会長は選挙はやるべきだと、しっかり言われました。なので、選挙はやるべきだと思っている人が大半なので、じゃあそれと定数の関係だったりとか、今まで2年間やってきたことが、どういう課題が見えたのか、議員活動、議会活動というのはどういうものか、皆さん理解されているのかということも含めて、2年間考察してきたんだろうと思います。その中で、じゃあ定数の話と議論を深めていくためには必要な段階だったんだと思いますんで、もちろん定数の話はしていかないと市民の方に顔向けできないので、それはもちろん結論を出すべきだと思っています。以上です。

○網谷委員長 北地委員。

○北地委員 先ほど議長のほうから私の聞き間違いかも分かりませんが、まあ無投票になって何もしないで次の選挙を迎えるのか、というように感じたんですけれども、そもそもこの議会改革が問題としてスタートしたのが、無投票があった、議員の成り手がいない、それをどう解消していいのか、そういうところからスタートしたと思うんですよ。

その結果、議会がどのように動いているのか、それをまずは市民の皆様にお知らせしたほうがいいのか、そういう流れを市民の皆様に見ていただいたほうがいいのかという話の中で、SNSとかYouTubeの発信とか、いろいろされてきました。これが議会改革のまず第1歩のスタートで、実行した行動だと思います。

そういうこともされながら、いろいろ討議をする中で、2年間きたわけですがけれども、いろんな活動もされて、議会改革も少しずつではありますけれども、確実に実施されてきたとは思っております。それを引き継いで、我々がこの後の2年間どうあるべきかというのを考えるべきであろうと思いますけれども、既にもうルールは敷かれていると思っております、私としては。そのルールに基づいて動けばいいのかなと思っておりますけれども、これ以上課題を増やしてもキャパが大き過ぎて手がつけられないのではないかと感じておりますので、今後この2年間については、今まで議会改革でやってこられた問題として出さ

れたのをどう解消していくのか、それを考えていくべきだろうと思っております。まあ何にもしてないわけではないので、少しずつ改革はしていかなければいけないのではないかと思いますけども、あと2年間でございますけれども、それまでには定数とかそういった問題もルールには乗っておりますので、十分討議して、どうあるべきか考えていけばいいのではないかと考えております。

○網谷委員長 藤川委員。

○藤川委員 議会改革でSNSの発信とYouTubeありました。YouTubeはまだまだこれから、比較的今伸びているかなと。各委員会のYouTube私もよく見ますし、私の回りも私が発言しとるんじゃないか見てみようかと、私は宣伝しております。あと各議員さん、まだ皆さんに対して周知が足りていないんじゃないかなと、昨日も議長が議長就任の挨拶をSNSで発表しております。ここにおられる議員の方、多分ほとんど御存じでないかなと思いますけども、それを皆さんで周知して行って、せっかくやり始めたんです、2年かけてせっかくつくったSNSとYouTube、委員会の発信、もっともっと皆さんの力で周知していったほうがいいと思います。このままだとやった意味がないですよ。議会の中のことで終わらすのはもったいないと思っております。

今皆さんがおっしゃられるように、議員定数。もうラスト2年、これ1本で僕はいいと思います。いろんな皆さんの意見を、議員を減す、減さない、もちろんその意見が一番メインになってくるんだらうとは思いますが、ほかのことをやるような余裕はないんじゃないかなと。多分かなり大切な協議になってくるのではないかと考えております。以上です。

○網谷委員長 はい、ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 すみません、せっかくです。

先ほど北地委員から御指摘もありましたけども、私は誤解されとるんかなと思うんですが、決してこの議会改革がこの2年間で何もなかったという意味ではありません。十分に活動もされたし、その成果も上がっていると思いますし、頭が下がる思いなんですけれども、今後何もなかったら、何もというのは議員定数の議論をしなかったら、2年後にまた無投票になるおそれがあると。そのときに市民からの視線が厳しいものがあるという思いで意見を言ったんでございます。

結果的に定数削減にはならないかも分かりません。いろんな議論をする中で、議員の数が本当に必要なんだという結論になるかも分かりません。逆にまた報酬の問題も見直しをしないといけないと。むしろアップを検討したほうがいいんじゃないかという結論が出るかも分かりません。いずれにしても、議員の在り方についての検討をこの特別委員会の中でしっかりやって、それを発信していく。その出た結論に対しては、議会が責任を持つ。そういうことが、そのテーマがないのであれば、市民から批判を受けるということを申し上げたんでありまして、それも仮に議員の定数を変えるという結論を出すということになれば、今から2年後に決定したんではもう間に合わない。少なくとも1年、あるいは1年3か月ぐらいの中で結論を出して、それを条例で定めて定数を決めていくということをし

ないといけませんし、まあもろもろの手続もあるでしょうから、そういう意味でそんなに時間的には余裕はないんじゃないかと。先ほど藤川委員が言われましたように、もう逆に言えば、ここの議員定数の在り方に絞って集中的にやって早く結論を出すという方向をお願いしたいなというふうに思います。以上です。

○網谷委員長 副委員長。

○西村副委員長 私は2年前に議会改革委員会に入りました。当初、本特別委員会の設置の理由に、市民に開かれた議会、市民参加を推進する議会、市民に信頼される議会を目指し、民主的な市政の発展と議会の活性化につながる議会改革の推進を務めてまいるということが、今年の4月23日に当初所属しておりました委員会から中間報告が出ております。

これの延長線上で、この度もやるもんだと私は思っております。先ほどからいろんな話が出てますが、それはこれらを含めた延長線上のお話であって、まずは議会の役割、そういうものをしっかり皆さんと議論しあってそれから進めていくべきだと考えております。以上でございます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

原田委員。

○原田委員 今まで皆さんの御意見をお聞きして、重複するところもあるかも分かりませんが、今副委員長おっしゃられたように、やはり2年間してきたことというのは、とても開かれた議会といいますか、基本条例に沿った形で皆さん議論されてきて、とてもよい議論だったと思いますし、それを全てではないにしてもおおむねほごにして、じゃあその定数の問題であるとか、そういうことに絞ってということは、私は反対なんです。というのがですね、先ほど議長もおっしゃられたように、定数の問題というのはとにかくこの1年とかいうスパンの話だと思いますし、例えば前回この2年間の中で、例えば開かれた議会ということで申し上げますと、委員会の中継もまだまだ全部できているわけではありませんし、積み残している分もたくさんあると思います。私も傍聴全部できたわけではありませんけれども、きちっと前委員長が工程表をつくられて、こういうふうな形でやっていこうというふうなプランを立ててされてました。それはとてもよいことだと思って聞いておりましたので、もちろんその定数の問題、これは一番大切な問題だと思いますけれども、それはそれで、どうしても、2年間びっちり話し合うというような内容のものではありませんので、ですからそれぞれいろんな皆さんの意見を出されて、それで過去2年間のことも引き続きこの後、議論していかなければならないと。ただその優先順位というものをどうするかというのはやはり、前委員長が出されたような工程表をつくって、そこでどういう順番でやっていくかということを決めて話し合っていく必要があるのではないかと、いうふうに私は思います。以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

日域委員。

○日域委員 私、2年間議会改革の副委員長ということでそばに座っていましたが、何もお手伝いできなかったという記憶がありますけれども、この委員会4年間あって、議員定数というのを4年間も審議しても長過ぎますから、だから前半はあれでよかったと思います

し、要は議会が何をやってるか分からないよねというのがあって、あいつら選挙のときは頼みに来るくせに、選挙が済んだら1つも来やへんという批判がよくあるじゃないですか。そういうところがあって、じゃあ日頃から、もっと議会に足を運ばなくても議会の雰囲気分かるようにできたらいいねっていう中で、この2年間そういう意味ではすごく前進したと思います。

本当に議会が注目を浴びるときって、大体ろくな場面じゃないんですよ。私が1番印象に残っているのは、佐伯区が、五日市町が、広島市に合併するときです。五日市町議会なんて大騒動ですよ、どさくさの中で何となしに決まったという感じですけども。大体大竹市議会での私の記憶の中で言うと、今ゆめマートが西栄にありますけど、あれをどうするか、何でしたかありまして、本当に傍聴席もいっぱいになるし、賛否拮抗でしたから。ある議員が中腰だったんですよ。中腰だったのが、あれが立つと座ると座ると座ると、多分立ったほうにカウントされたんでしょうけども、そのぐらいでしたけど。そうなるというんなら利害関係の人が傍聴に来られるわけです。それはそれで大事な場面なんですけども、やっぱり日頃から何も無い、大きな課題がない時期もやはり議会が何をしているかというのは分かったほうがいいですから。本当に討議もそうですし、どうなるか分かりませんよ。今からうまい具合に機能するかどうかは我々の責任にかかっているんだと思いますけども、中継にしても、さっきのSNSにしても、それから討議にしても、中身がなければ中継しても面白くない見せ物になりますから、そのためには何か必要ですよ。

根本的には私、議会というのは認め印だと思います。手続する上で議会がオーケーと言わないと動かないわけですよ、条例にせよ予算にせよです。そういう何種類かのものがあって、議会で多数決で立ったか座ったか、それが最も大事なことです。ただ、何でやって言われるから、その何でやが分かるようにやっぱりそこで一定のやり取りをして、ああそうか、あの人はこういうで、あの人はこうで、この人はこうで、それで多数決で決まったんかって分かったほうが市民には分かりやすい。だから前半は意味がなかったんじゃないかと、寺岡委員長、すごく頑張られたと思います。抽象的な話ですから大変だったと思いますけれども、御自分であれだけプランを考えてされたとすれば、私は敬意を表したいと思います。

それをどう生かすかがこの後半戦なんで、それは実際にトライしながら、議会のありようというか、議会のメンバー構成を決める上での選挙というものはあったほうがいいねと、それが定数削減だけかということとそんなことはないと思いますけれども、やっぱり何らかの選挙ですか、選挙があったほうがいいなということで、皆さんで知恵を出し合って決めていきたいなと思っています。以上です。

○網谷委員長 小中委員。

○小中委員 だから無投票ということは、我々は選挙の洗礼を受けておりませんので、それでうれしいかうれしくないかはともかくとして、住民から投票率がどの程度か分かりませんが、住民から投票の機会を奪うことになるわけで、それは選挙するためには、取りあえず競争率が高いからその議員の質が高いかどうか、それは分かりませんが、少なくとも競争率がゼロという事態は絶対避けるべきだと思います。そういう観点からしても、要す

るに私は自分が通るとか通らないとかそういう問題じゃなくて、住民に選挙の機会を持っていただくという観点からしても、私は個人的には定数削減をすべきやと思います、議会の決定でしないということになったら、それはそれで私は仕方ないと思います。

だから先ほども申しましたように、少なくとも旗幟を鮮明にする必要はあると思います。議会改革というか、議員定数削減というのは住民にどなたにでも明らかに分かるわけですよ。SNS云々とかいうのは関係ない人には分からへんし、みんなが全て分かるわけじゃないけど、議員定数削減は誰にだって分かるわけですよ。なおかつ、住民の投票機会を保障するという事は、民主主義の原点だと思われまますので、私は藤川議員が提案されましたように、議員定数削減1本で行くべきだと思います。

○網谷委員長 ありがとうございます。

以上、一応皆さんの意見は済んだということで、皆さんの意見を聞きながら、ここはもう1個僕も推しておきたいなという意見がございましたら、まだ時間もございますんで、あれば手を挙げて発言していただければと思います。

日域委員。

○日域委員 場違いな話かもしれませんが、させていただきます。

選挙って、これは私の全く勝手な話で、こういうことが可能かどうか分からないんですけども、投票するじゃないですか、それで、必ず1人は落ちるよねっていうルールをつくれなものかなと。やっぱり全員当選というやっぱり面白くないじゃないですか。選挙って非常に難しいもので、もうすぐ衆議院選挙がありますけれども、ある学者は、次点で落ちる人がいますよね、次点で落ちる人は次の選挙まで議員報酬と同額を与えろっていうことを提案している人もいますけれども、落ちた人は次の選挙まで耐えるのが、経済的にすごい大変なんです。その人が次のまで、生活しながら候補の予定者として生き延びてくれたら次の選挙は活性化するわけですね。それはもちろん、そのルールは今ないですよ。ないけれどそんなことを言っている学者がいて、一理あると思うんですけども、大竹市議会ではそうはいかないでしょうけども。

やっぱり談合じゃないけど、よくありますよね、出る人が急にでなくなって、私の同級生が本当急に、うちの議会は無投票って新聞に出てからふざけとって電話してきたやつがいて、どうすりゃええんやって言ったら、しょうがないじゃないですか、お前出えやっ。彼出ることになりましたけど、やっぱり誰か出りゃもういいわけです。たったそれだけなんです。だけどそれがなかって無投票になるぐらいなら、誰か必ず1人は落ちるって、そんな条例は無理かもしれませんが、何かいいものはないかなと思いますけど。やっぱり選挙がないと、それこそ投票率もなければ得票数もないじゃないですか。際どく当選する人もいれば、トップ当選の人もいますわけですよ、そういうものが何もなくて、取りあえずみんなお手手つないでゴールインみたいなものは、やっぱりあまりよろしくはないですよ。

すみません、つまらんことを言いました。ありがとうございます。

○網谷委員長 どうも。ほかに。なければ、皆様方が思われたことを文書にして、今月いっぱいまでで出していただけたらと思います。この点に関してはよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それではそういうふうによろしく願いいたします。

それでは日程2のほうは終わらせていただきます。

日程3のその他でございますが、その他は皆さん発言されたと思いますが、あればその他で何とか、発言してください。

小中委員。

○小中委員 だからその他っていうのは多分あれなんじゃないですか、次回開催をいつにするかとかいう、何日にするかというスケジュールを決めなきゃいけないんじゃないですか、その他において。

○網谷委員長 もちろん今から聞こう思っと思ったんです。

それではその他ももうよろしいということで、日程第3も終わりということで。

次は次回開催をいつにしたら。私が考えておるのは決算特別委員会が来月の15日に終わるとのことなので、その次の週ぐらいですか、それに合わせていただいたらと思うんですが、局長のほう、議長の関係でどうなりますかね。

局長。

○三上議会事務局長 10月18日の週ですが、議長の公務は入っておりません。その次の25日の週も予定は入っておりません。以上です。

○網谷委員長 できれば早いほうがいいんで18の週で。18日は月曜日ですからね、火曜日ぐらい、19、20ぐらいですかね。どうですかね皆さん。20日でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 それでは10月の20日ですね、10時でよろしいですか。

10月の20日の水曜10時からということで、皆さんよろしく願いします。

以上で議会改革特別委員会の今日の全日程を終了しましたので、閉会といたします。

お疲れさまでした。

11時15分 閉会